

ハストックホルム公試

WRRI代表としてボーウイマルク及スエーデンWRRI代表が参加した。各委員からの報告の中で「アメリカ公試会が南バトナム援助の追加依頼を拒否した」ので、世界銀行が子エ体制援助の有り代りまとうとする傾向があらわれていること、G・ユルコの報告が注目される。

尚この公試に対して二月のWRRI執行委員報告で明らかとなり、世界平和評議会は、公試の破産又は弱体化をめぐっている。然らば中国との紛争に際しアメリカを中立に立たせ、北バトナムと南臨時政府を拘束しようとする連の政策と関連してうごいていく。

WRRIはこのような傾向に対し、ウイン声明の基礎に立ち廻る国家であらうと、その人民組織をくばトナムの自由勢力を支持しなければならぬと主張し、公試とくに執行委員の態度をよめている。

ハストックホルム公試の内題

モスクワで開かれるこの公試に、オプザバーでなく代表を送れと云ってきながらWRRIのシニエル・ランドルのビガ申請を拒否したのは黙示しえない政治的作爲である。それにストックホルム公試での分裂勢力は後かならざるものだ。今後の世界平和評議会との協力については注意しなければならぬ。

ハストックホルム公試との連絡

① EFORは新興行委を送出、四月にニューヨークでの集会によってブラゼルに移転を決定、八月下旬までに現在の本部(ペンマーク)から引越すことになった。これたともないEFORは本部専従役員を次の条件で求めている。

非暴力行動の理論とその実践者であること。英語ができ、独仏、スペイン、イタリア語を出発することが望ましい。九月一日までに決めたい。希望者は *International Fellowship of Reconciliation, Hasselhaugen 6, Oslo Glastrup, Copenhagen, Denmark.*

② WRRIとEFOR相互間の連絡強化について話し合いが進められている。WRRIの *Joe Gerson* と *Lauri Gerson* は渡米して公試に出席、EFORは今WRRI委員と連絡協力を決定した。又EFOR執行委員役員はイタリ、トルノで開かれるWRRI執行委員オプザバーとして招待される。

③ EFORの内部では、社会主義派と

(上段左端より) 非社会主義派との向で目的に閉じて大きな見解のくいちがいがあつた。これの解決が何より必要なことである。

ラルザツクの農民抗争

フランスの三甲地区 *M. Bodmer* と *Karl Henning* が、ドイツ、スイス各域部会と共に二月五日より三月二日までラルザツクを訪問、通信を遂げてきた。

予定でジュネーブを出たが、急遽の姿なくカワレリイへ無断で行く。そこはミロから20キロのラルザツク地方中心の小部落、最初の一夜は羊小屋にもぐりこんですごした。翌日農夫たちであつた。見るからに善悪そうを散らば、兵隊、軍用地拡張に対し非暴力行動で闘つていく。家々には *Salvez le Larzac* という標記を掲げ、ヒヤンキで大書されている。彼らの抗争支援のサマキヤン計画を話す、敵視され、周囲の集民を苦しめてくれ、悪徳の責任者を紹介してくれ、悪徳はカワレリイから75キロのところまで8人が常住しているがWRRIキヤンプ設置に同意してくれ。内題は非常に小さな部落なので宿ゆさせてくれる民家が多いというくらいだ。

④ 二年前から始まつたラルザツクの斗いはようやく勝利の光をみせ、支援も広がつていく。学生やフランス国内C.O.の良心的兵役拒否の援助で悪徳たちは新たな羊小屋を設けた。それは悪徳がそれを耕作し、留り、共同体を断平としてつくる意思を示すものである。政府はその羊小屋支援の呼びかけに應じる市ひびくさうだ。悪徳のねばりつよい反対運動に御徴された非暴力直接行動は、政府の計画を差支へせることに成功し、当初の三千ヘクタールの指定地が、一万七千ヘクタールへ拡張する案は、やがて二万三千に、ついで六千三百ヘクタールに足りるとなり、最終的に實はラルザツク高原を全部明け渡してはるか南のエロルへ移るといふことになりさうな形勢である。

④ WRRIは八月、ラルザツクでワタキヤンブを開く。オプに受入準備は *Marius Bodmer* によって進められ、

諸報告から

④ WRRIは各国各地域の活動家に会合することによって情報を交換し、その業績と経験を他人にひろめると共に新しい活動方法と戦略を得ている。この数ヶ月間に我々はベルギー、ノルウェー、スウェーデン、デンマーク、西ドイツ、スイス、フランス、英国、オランダ、米回を訪れた。

④ *International Confederation For Peace (ICDP)* 軍縮と平和のための国際同盟とはあらゆるレベルでの連帯活動がすすんでいく。とくにバトナムの平和勢力がオスロに集結するに活躍がある。EFOR総書記長 *V.ハッセル* はWRRIがこれに胸を打たないようとの要請があつたが、我々は昨年委員会が支持を決定しており受け入れなかつた。

④ ICDPはまた中東内戦に活動の焦点を移し、その接触や報告は充実した役立ちものである。WRRIはICDPの内部でより積極的活動をしなければならぬ。

④ WRRIメンバーは国連人権委員会内で活動し、良心的兵役拒否権(C.O.)の内題は、反軍度優先検討課題となつた。

④ WRRIは国連E.O.S.O.C. (経済社会理事会) 非国家代理人保護令類として、その書記局でも働いている。M.ボニマーが国連全代開やヨーロッパ理事会と密接な連絡関係を維持している。

④ インドシナIPRG、DRVと佛教徒代表が訪れた。彼らは出版物やスライドを提供し、戦後の戦争 *Post War War* をつづらに報じた。それはドイツでも公開された。執行委員は仏教徒が三勢力、解放勢力との連絡をはかり、そのパンフ等の出版を進行させている。

④ 中東内戦のために、本部とは別に中東研究行動グループがある。いま活動は刊行物だけだが中東新代替地委 *パレスチナ研究新向のメバ* などと連絡し非暴力平和派の人々のための可能な解決手段を見出すべく努力し、そのこと、中東内戦を扱った国際会議を開く意向をもつ。